

## D—1 コールド・チェーン（低温流通機構）と その問題点

市立西陵商高 小木 紀之

1. 本研究の目的は昭和30年前後よりわが国が大量消費時代に入ったといわれてより今日までその大量消費現象が食生活の中にも浸透してきている中で最近とみにマスコミ等を通じて叫ばれているコールド・チェーン（低温流通機構）を社会経済体系の中で理解することにより今後の流通機構をより円滑にしてゆく目安とする目的を持つものである。

2. 研究方法としては家庭における台所革命をもたらした直接の原因たる大量生産および大量消費現象の把握、生鮮食料品の物価高をもたらしている原因はどこにあるのか。またそれに対する消費者保護行政はどこまで進められているのか。なぜコールドチェーンが今後の食生活の中での重要な部門を占めるものとして登場してきたのか。以上の観点から諸問題を分析していくことになる。

3. 特に中京地区においては一昨年、昨年に引き続き本年も5月中旬より、「ベターリビングショウナゴヤ'66」という明日のよりよい消費生活を送るために必要な商品の陳列とそれを通じての商品知識の普及、さらには消費者行政に関する展示がなされていた。その中でここで問題としているコールドチェーンの原理的なもの、すなわち金魚を液体窒素を用いて急速に冷凍させてみるものが紹介され、一般消費者の注目を集めていたことか

らして以上の観点からの分析はよりワールドチェーンに  
対する消費者マインドの育成に役立つものと確信するも  
のである。